



参加した37人の住民を前にあいさつする小沢市長

10月15日の佐倉河地区センターを皮切りに、全30地区センターでの「将来の市政のあり方広聴会」がスタートしました。これは「地域自治区の存廃」「28年度行政組織再編」をテーマに、市政運営に広く市民の皆さんの考えを反映させることを目的としています。

小沢昌記市長は「行政と市民が丸となってまちづくりを進めるため、自治区の存廃や組織の再編を問う」とし、将来を担う若い世代をはじめ、広い世代などからの多くの意見を呼びかけました。

「将来の市政のあり方広聴会」開催中



調印後、決意を新たに腕を組む4市町の長

人口定住に必要な都市機能と生活環境の整備を広域連携により充実させるため、市は9月28日、北上市とともに金ヶ崎、西和賀の両町と定住自立圏形成に向けた協定を締結しました。これにより4市町は、相互に役割分担し、自主性・自立性を尊重しながら、共同してまちづくりに取り組みます。

協定書に調印した小沢昌記市長は「圏域を形成する市町が知恵を出し合い、そして汗をかき発展していく新たなステージの始まり。パートナーシップをもって活性化につなげていく」と力強く語りました。

「安心して生活できる圏域を目指し締結」



玉串を神前に捧げる小沢市長

胆沢中学校の校舎新築工事の無事を祈る安全祈願祭が10月7日、建設地である胆沢区南都田字蛸の土地内で行われました。

祭式には、小沢昌記市長や施工業者などの関係者が出席。安全を祈願し、玉串奉てんなどを行いました。

胆沢区内の3中学校が統合して誕生する胆沢中学校は、敷地面積約6畓、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造の2階建てで、29年3月24日に完成の予定。小沢市長は「胆沢に無くてはならないもの。自信をもって建ててほしい」と施工業者を激励しました。

「胆沢中学校校舎の建築が始まる」



「今後の激励とする」として賞賛状を受け取る小沢市長

市は、ことし4月16日から10月16日までの6カ月間、交通事故ゼロを達成しました。これは、平成20年4月以来7年ぶりのことです。この達成に対して10月19日、市役所において交通安全関係団体同席のもと、新家勝昭水沢警察署長から小沢昌記市長に賞賛状が手渡されました。

小沢市長は、達成直後の10月18日に江刺区内で交通事故が発生したことを受け「記録をさらに伸ばしたかった。決意を新たに、これからますます市民へ交通安全を呼び掛けていきたい」と語りました。

「交通死亡事故ゼロ6カ月を達成」



「先端加速器科学技術推進シンポジウム2015 in 東北」（いわてーLHC加速器科学推進会議など主催）が10月17日、市文化会館（Zホール）で開催されました。今回は、その講演要旨をご紹介します。

加速器で解き明かす4つの謎

宇宙の始まりは素粒子の世界。素粒子の性質が宇宙の創生と進化の謎を解明する。素粒子の研究は、日本が世界をリードする分野だ。

宇宙には解き明かすべき4つの謎がある。「質量の起源」「暗黒物質の正体」「宇宙から消えた反物質」「加速する宇宙

I-LC計画の現状と将来に向けて

I-LCは、「目指すもの」「建設場所」「製造技術」がそろい、建設に向けて国内だけでなく関係各国の議論も始まっている。日本が主導して国際的な枠組みをつくるのは

膨張」。この謎を解くために、茨城県東海村のJパークや、同県つくば市のBファクトリー（KEK）、スイスのLHC（CERN）などがある。これに加えて、ぜひ東北にI-LCを誘致したい。――高エネルギー加速器研究機構（KEK）・山内正則機構長

I-LCが築く豊かな未来

I-LCができれば、アジア初の国際研究拠点となり、そ

初めてで、特に科学技術の分野では非常に大きな挑戦だ。科学は人をつくり、挑戦意欲をつくる。それが新しい文化や技術となり、生活、文明につながる。I-LCをいかに地域や子どもたちの将来に生かしていくか、皆さんと一緒に考えたい。――先端加速器科学技術推進協議会大型プロジェクト研究部会・山下了部会長



希望のひかり

第32回

市が実現に向けて取り組んでいる国際リニアコライダー（以下、I-LC）計画について最新情報をお届けします

シンポジウムに参加して ～ interview ～



水沢高校1年
平岡 凌 君
Hiraoka Ryo

長年にわたる宇宙の謎を解き明かす手がかりとなるI-LCが本県に建設される可能性があるということは、大変光栄です。理系大学に進学を目指す私にとって興味深い内容でした。



水沢第一高校1年
佐藤 瑞綺 君
Sato Mizuki

I-LCが完成すれば、岩手が世界の科学技術の中心になる…そう思うと待ち遠しいです。これから変わっていく「岩手」。その素地になれるよう、しっかり勉強していきたいです。



水沢商業高校3年
佐藤 玲菜 さん
Sato Reina

私は将来、福祉の仕事で住みよい街づくりに貢献したいと考えています。I-LCの実現でさまざまな分野が新たな可能性を広げ、東北が魅力ある地域に発展することを願っています。

これから新しい産業が生まれる。また、約1万人の研究者と家族が地域に溶け込む。その効果は絶大で、そのような可能性はあるのはこの地域だけ。そんな地域で若い人たちが学び、将来も地域を支えたいとの思いを抱くだろう。

国の財政が厳しい中、政治決断のハードルは高い。何より大事なのは、国民一人一人



の熱意と意志だ。岩手が中心となって熱を高めてほしい。

――日本創成会議・増田寛也座長